

栽培品種の8割以上を占める本県の「やぶきた」の多くは耐用樹齢を過ぎており、改植を進める中で戦略的高生産性品種への転換を図っている。

特に本県の主要茶種である「かぶせ茶」は他県でも生産量が急増していることから、「やぶきた」に勝るかぶせ茶向き品種の導入による優位性の確立が急務である。「かぶせ茶」は被覆による高アミノ酸で緑色が濃く、かぶせ香の強いものが高品質とされる。「きらり31」はこれらの条件を満たすうえ、生育がよく、高収量が見込まれるため戦略的高生産性品種として、生産者や実需者と連携しながら普及に向けた技術確立支援を行う。

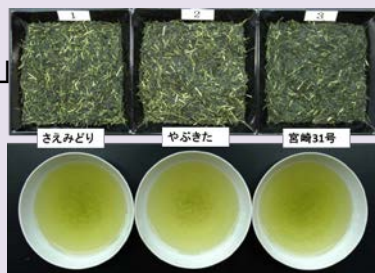
新品種・新技術等の概要

「きらり31」は宮崎県総合農業試験場茶業支場において、高品質と収量性を目標に平成6年に「さきみどり」×「さえみどり」を交配して得られた系統を「宮崎31号」として評価した結果、優位性が認められたことから、平成27年3月に登録番号25105号として品種登録された。

三重県においても被覆茶用品種としての評価を行った結果、従来品種に比べ「色沢」「収量性」で特に優れており、またテアニン等のアミノ酸含量が高く「滋味」でも優れていたことから、本県では平成27年より戦略的品種として普及を進めている。



やぶきたとの比較(右:きらり31)

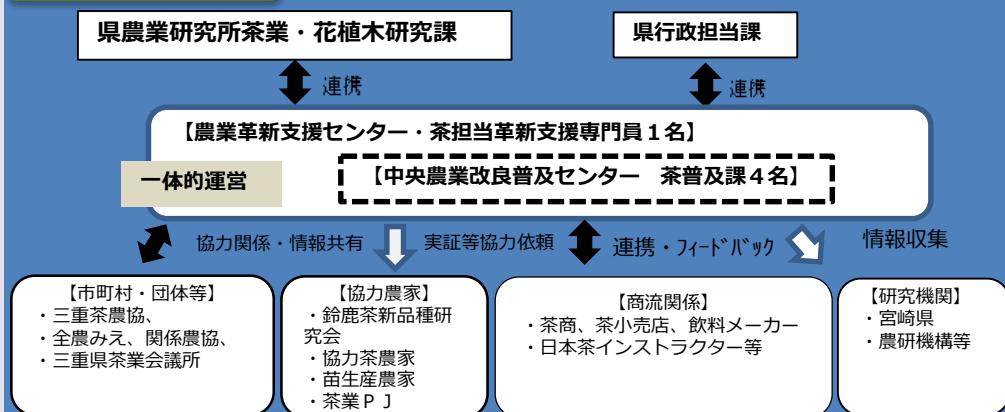


一番茶の比較

主な取組内容

- ・実証ほ設計検討会、実証圃現地検討会、成績及び実績検討会
- ・試験圃、現地実証圃の設置と運営（挿し木試験、育苗実証圃、現地幼木園調査）
- ・試験研究機関と連携した調査研究
- ・生産者の品種に関する意向調査
- ・品種茶を取り扱う茶小売店ベンチマーク調査（東京、埼玉、大阪）
- ・1番茶煎茶、かぶせ茶の製品サンプルを作成し県内茶商の評価取得
- ・育成者の宮崎県茶支場及び生産者（都城市）ベンチマーキング調査

実施体制図



課題と今後の対応

- ・直床挿し1年生苗は、植え痛みしやすく、移植期及び夏期の干ばつにより枯死が多いため、ポット苗等の購入希望者が多い。これに対応するためペーパーポット苗の生産が必要である。
- ・「きらり31」はかぶせ茶向け高生産性品種として普及センターが中心となり、生産者への普及を進めている。今後、普及が進み多くの製品が県内茶市場へと出荷された場合の販売戦略について市場関係者とともに検討する。

具体的な対応

- ・ポット、プラグ苗生産技術実証の実施（全農みえとの共同実証）
- ・現地経年栽培実証ほ設置・調査（7箇所）
- ・県外におけるきらり31の玉露栽培でのベンチマーキング
- ・県内及び県外茶商へのニーズ調査
- ・茶業者への周知活動